

## IELTS について

英語力を測る検定試験には、TOEFL、TOEIC、英検などさまざまなものがありますが、私たちは、最も総合的に英語の実力を評価できるのは IELTS であると判断しています。

IELTS の学習方法は、大きく二つの段階に分かれています。第一段階は、論理的に英文を読み取る訓練です。IELTS では、質問文と本文で使用されている単語や表現が異なることが多く、表面的な一致だけでは正答にたどり着けません。たとえば、「A」という言葉と、「A」という言い換え表現が同じ意味内容であることを、文脈から正確に理解する力が求められます。これは、たとえるならば「小さな三角形でも大きな三角形でも、内角の和は 180 度で等しい」というように、本質を見抜く論理的な理解に基づいた読解力といえるでしょう。

この段階では、スピードよりも正確さが最優先です。単語や構文を丁寧に確認しながら、時間をかけても良いので、まずは満点を取ることを目標に読み込む訓練を行います。

注意点として、この段階で無理に制限時間内に解こうとすると、正確に読む力が養われなくなってしまいますので、時間配分を気にする必要はありません。

そしてこの正確な読解力が身についてから、第二段階として、時間内で解く訓練に移ります。この段階では、スピードを意識した実践的な練習を行いますが、実はこの訓練にかかる時間はそれほど長くありません。はじめは 40 分で問題を解くところから始め、慣れてきたら 5 分ずつ短縮していき、最終的には本番の試験時間である 20 分で満点を目指す練習を行います。

このように、「正確に読む」段階と、「時間内に解く」段階の二つをしっかりと分けて学習を進めていくことで、IELTS リーディングにおける実力を確実に高めることができます。

なお、この学習を通じて生徒の能力をどのように一貫して開発していくかについては、次回、詳しくお話しいたします。

## 英文法強化クラス

英語の基礎は、単語と英文法を徹底的に強化することによって作られます。多くのインター生は英文法を学んでいないので、ブロークな英語のまま放置されています。それは、まるで液化化した土地に建物を建てていることに似ています。WAY では、岩の上に家を建てるように、嵐が来ても、びくともしないしっかりとした基礎を作ることを目指しています。そうすることによって、更なる英語力を伸ばす土台を作ります。

## IELTS クラス

現在、英語の教材のリーディングテキストとしては、IELTS の教材が最も優れていると私たちは判断しています。読む力以上に、ライティングやスピーキングの力が上がることはありません。IELTS クラスでは、論理的に英語を読む訓練を徹底的に行っています。また、IELTS の読解を通して、TOEFL の点数を上げるために、TOEFL 無料講座を動画で提供しています。このクラスからでも、慶應大学や早稲田大学に合格する生徒がいます。

## SAT クラス

欧米、シンガポールのトップレベルの大学、および日本のトップレベルの大学を突破できる力をつけるクラスです。現在の欧米の入試テストで最も難易度の高い英語の教材で指導しています。このことによって、TOEFL や IELTS テストに余裕を持って臨むことができ、高得点を取ることができます。こうした難易度の高い英文には、英語を論理的に読むという訓練が必要です。論理力がない限り、高度な英語力を培うことはできません。このクラスからは毎年 IB スコアで 40 以上(今年は 45 の生徒がいました)が取れるライティング指導もしています。また、TOEFL100~110 点以上を目指しています。指導期間が必要ですので、お早めにご相談ください。

## 日本語クラス

日本語クラスでは、論理的に読むこと・書くことを基礎から応用 (IB レベル) までの日本語を指導しています。特に、インター生の場合は、インターで優れた教員についている場合、論理力がある程度身に付いています。その力をさらに引き出すことで、高度な日本語をマスターできる方法を開発しました。論理力を身に付けることで、正確な思考力が養えます。それによって、IB の日本語での高得点が取れ、かつ英語のライティングも精緻な構成力を持った論文が書けるようになります。(このクラスからケンブリッジ大学、シカゴ大学、シンガポール国立大学、インペリアル・カレッジ・ロンドン、東京大学などの合格者を出しています。) 論理的な思考力なくして、IB で高得点を取ることは不可能です。日本の教育では、論理をほとんど教えていません。しかし、国際社会で生き抜くためには、論理力が必要不可欠だと私たちは考えています。